



ふるさとジオ塾通信第10号

塾生のみなさん、こんにちは。

前回講座のジオサイト巡りバスツアーでは、名物講師の羽立節全開でしたね。バスの車内でもジオサイトの前でも、常に笑い声が絶えませんでした。あっという間の3時間だったのではないのでしょうか。コース自体は昨年度とほぼ同じでしたが、立ち寄る場所を変えてみたり、ちょっと視点を変えた解説をしたりと、講師の協力をいただきながらマンネリ化しないよう事務局も工夫しているところです。今年はあと2回バスツアーを実施する予定ですが、「あそこに行きたい!」「こんな話が聞きたいんだけど…」などのご意見ご要望があれば、いつでもお気軽にお寄せください。



第5回（8月）講座のご案内

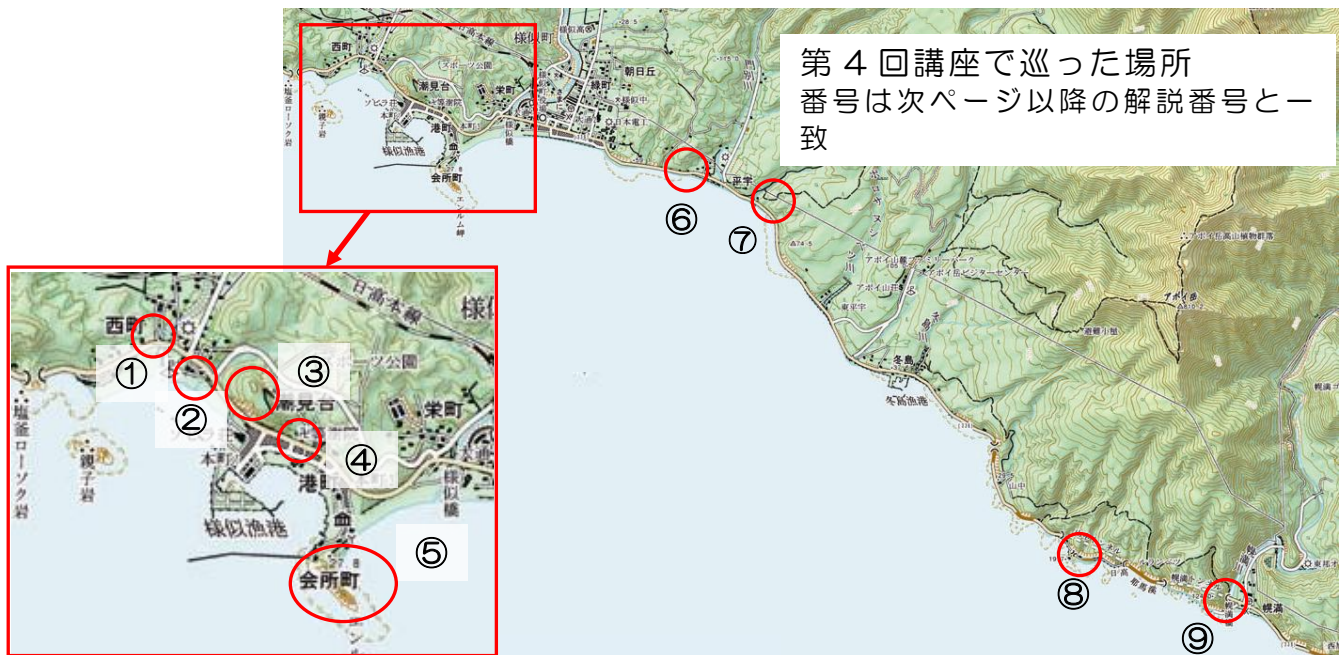


次回の第5回講座は、初めての取り組み、船に乗って沖から様似を眺めようというものです。詳細は検討中ですが、様似漁港から出港し、親子岩の裏側を回ってから様似市街、アポイ岳などを沖から眺め、幌満沖付近から戻ってくるというコースで、時間は2時間程度と考えています。

司馬遼太郎の「菜の花の沖」の中で、主人公の高田屋嘉兵衛は様似を沖から眺め「神々の国だ」と表現します。みなさんも「神々の国」を自分の目で見てみませんか？

【第5回講座 神々の国だ！ 沖からみる様似】

1. 開催日：平成23年8月21日（日） 午前（2時間程度）
2. 申し込み：必ず事前の申し込みが必要です。8月17日（水）までにお申し込みください。
申込先：電話 36-2120（アポイ岳ジオパーク推進協議会事務局：役場商工観光課内）
船は折り返し運行の2便の予定ですが、希望者が多い場合、抽選となる場合もあります。
3. 集合・解散：様似漁港（詳しい場所は受付時にお伝えします）
4. 雨天等の場合：天候や波の状況によっては中止となります。当日に中止を判断することも想定されますので、申込時に当日連絡のつく電話番号をお知らせください。



第4回講座のおさらい

「ジオサイト巡り① 江戸から昭和の様似の歴史を中心に」

講師：羽立豊春さん（元様似郷土館職員）

① ホタフンペ（アイヌ語で砂クジラ）

現在は木々に埋もれているが、昭和40年代まではすり鉢を逆さにしたようなきれいな形の単独の小山だった。名前は32話ある様似のアイヌ伝説の1つに由来。昔、トカチアイヌがサマニに攻めてきた。何日も戦いがつづいたある朝、トカチアイヌがこの辺りを眺めると、大きなクジラが打ち揚げられていた。アイヌにとって海の神様であるクジラに向かって弓は引けないとトカチアイヌは引き上げ、サマニは救われた。しかし、実はクジラではなく、サマニアイヌが目くらましのために一晩かけて砂で作った山だったというお話。町史には、戦いのとき、砂山の上をカモメが舞っていたということが書いてあるが、おそらく砂山の上にイワシかなにかを撒いたのではないかと推測している。



奥の小山がホタフンペ

② 三井軌道事務所跡

昭和初期、三井物産が浦河町の上杵臼で大規模な森林伐採事業を実施した際、上杵臼から様似の西町まで軌道が敷かれ、工場もできた。その三井軌道の事務所が、20年前まで現在の工藤商店の道路反対海側にあった。伐採木は昼夜兼行運行のディーゼル機関車で西町に運ばれ、ここから船積みされた。当時、多くの人が集まる西町は様似の中心だった。様似の最初の小学校もこの西町に作られた。当時はキリシタナイ小学校と呼ばれ、鵜苫の子どもたちも通った。当時、塩釜トンネルがなかったので、鵜苫の子どもたちは塩釜トンネルの山側のへこんだところを通っていた。ここを子どもたちが冬場に歩くのは非常に辛いということで、



軌道があったころの西町の様子

後に鵜苫にも小学校が作られた。

③ 観音山のカムイチャシ記念碑

岡田と田代の2箇所には昔のアイヌの人たちを供養する場所があったが、昭和50年頃、そこを発掘約213体の遺骨が出てきた。それらは様似の共同墓地に埋設されたが、それを供養するために昭和52年に設置されたのがこの碑。今でも毎年5月に供養祭がおこなわれている。また、この記念碑の付近には、竜神様を祭る社があったが、いまはもうない。



観音山のカムイチャシ記念碑

④ エンルム岬

観音山展望台から見えるエンルム岬。現在台場になっている場所には、今から5000～4000年前の縄文時代の遺跡があり、埋蔵文化財の保存地になっている。岬の頂上付近にもチャシがあったとされる。狭い場所なので、狼煙（のろし）を上げる場所だったのだろう。エンルム岬はもっと大きかったが、浦河沖地震の際にかなり崩れ小さくなってしまった。ここには、昔「恩賜灯」という灯台のような役割をした施設があった。これは、太平洋戦争当時、様似の海岸救助隊が活躍した褒美として天皇陛下からいただいたお金を基に設置されたものだが、それも

地震の際に崩れてなくなってしまった。エンルム岬は、見る方向によってネズミが伏せた姿に見えることからネズミ岩、また、跳ね見岩とも呼ばれていた。明治のころ、岬の上から魚の群れが見えるほど魚影が濃い時代、岬の上に人が立ち、魚の群れを見ながら網を張る場所を船に合図を出していたが、その様子岬の上を跳ねているようだったため。岬の西側の基部の岩盤に規則正しく割れ目がはいっているのは、昆布の活性化を図る目的で新しい岩を作り出すために、ダイナマイトで人為的に壊した跡。

⑤等澍院

現在、護摩堂の改築中。過去 2 回の移転では護摩堂は解体してそれを再建築したが、今回は古く痛んでいるため、一部の材のみ再利用しての改築で、9 月に終了予定。本堂前の 6 つの供養塔は、等澍院が復興されるまでの 13 代の住職のうちの 6 人を供養するもの。向かって左から初代秀暁師、第 6 世慈謙師、7 世亮堅師、8 世住職慈真師、9 世徳善師、6 番目が 13 世順田師。なぜ、13 代住職のうち、6 人の供養塔しかないのかは謎。初代秀暁師は百人浜の一石一字塔の建立で知られる。おそらく慣れない冬の寒さのせい、初代秀暁師、第 6 世慈謙師、7 世亮堅師とも様似に来て数か月～2 年ほどで亡くなっている。8 世住職以降、来た年の翌年には隠居願いを出すようになったため、幕府は最低 10 年間滞在することを義務付けた。隣の智教寺敷地には 6 地蔵がある。これらには建立年も、建立した 8 世慈真の名前も残っているが、様似にあるもののうち、年代と名前を実際に確認できる歴史的なものだと思う。



等澍院の 6 供養塔（右端を除く）

⑥国道沿いの送電線跡

平宇～白里谷間の国道沿いの海岸の岩場の上に朽ちた古い金具が残っているが、これは日本電工の創始者手塚信吉氏が千歳市の王子製紙の発電所から日高に初めて送電線を引いた時の施設の名残である。同じ名残が、鵜の鳥岩の上にも残っている。



昭和初期の送電線施設の名残

⑦国鉄バス事故の殉難碑

白里谷の国道沿いに石造の殉難碑がある。昭和 20 年 3 月 21 日、太平洋戦争がまだ続いていた当時、国鉄のバスに積んでいた映画のフィルムに引火して、走行中に火災が発生。さらにバスは海岸に転落。乗員乗客 49 名中 19 名が亡くなり 16 名が重傷を負う惨事が発生。その供養塔がこれ。



国鉄バス事故の殉難碑

⑧-1 小市郎トンネル

正式名称山中トンネルは通称小市郎トンネルともいう。様似会所の初代詰合役人であり、様似山道開削に携わった中村小市郎にちなんでいる。同時期に開削されたえりも町の猿留山道の責任者は最上徳内だが、その山道下に作られた国道のトンネルは徳内トンネルという正式名称が付けられた。それなら様似でも、ということでこちら小市郎トンネルと呼ぶことにした。

⑧-2 海岸の岩場

アイヌ語でヨモケペンシと呼ばれた場所。ここは夕暮れになるとシカが集まる場所で、昔、アイヌの人たちはこの岩場の陰に隠れ、弓を構えてシカが下りてくるのを待ち伏せしたという。ちょっと前でも、山から追われてきたシカがここに降りてきて海に逃げ込み、それを漁師たちが船でシカをとったという話を実際に聞いたことがある。

⑧-3 4つのトンネル

ここには、平成・昭和・大正・明治の各時代に作られた4つのトンネルが並んでいる。明治時代に様似で掘られた11か所のトンネルのうち残っているのは、ここと幌満川の河口の2箇所のみ。高さは5尺5寸ほどなので、小さなドサンコなら通れる程度。

⑧-4 オホナイの滝

様似山道付近から続く沢の流れが落ちる滝。この滝の下に波切不動がある。昔、この付近で子どもが海難事故に遭ったことがあり、それを供養するためにこのあたりに定置網を構えていた様似と浦河の網本が共同で設置したもの。付近に長く住む円館さんによると、円館さんが中学生の頃までは毎年9月に浦河のお大師さんと呼んで、供養のお祭りをしていた。



山（右奥）から降りてくるシカを待ち伏せたという岩（左手前）



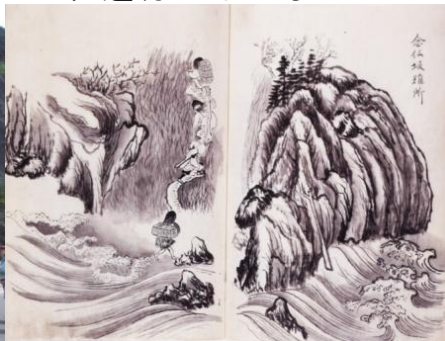
昭和初期の波切不動のお祭りの様子

⑨-1 幌満川河口の念仏坂

江戸時代、幌満の岬を通るには、この急な断崖を上り下りしなければならなかった。旅人達は恐ろしさのあまり、念仏を唱えながら越えたという。崖の上の方は平らになっていて、住居の遺跡も発掘されている。こんな高い場所なのに不思議と湧水があり、戦時中はこの上で畑も作られていた。谷元丹が描いた念仏坂の絵図が残されている。

⑨-2 鵜の鳥岩

この岩は鵜（ウ）がたくさんとまるためにその糞で白くなっている。近藤重蔵がこの岩を見て、中国の詩人李白の風貌にならって李白岩と呼んだことが谷元旦の記録に残っている。現在通行止めとなっている旧国道が開通してから、鵜がこの岩に来なくなったために、一時期白さが無くなったこともあったが、通行止めとなってから鵜が戻り、白さも戻ってきた。



念仏坂の現在と江戸時代の絵図（谷元旦画）

鵜の糞で白い鵜の鳥岩

今後の講座 (予定含む)	第5回講座	8月21日(日)	野外	船に乗って沖から様似の地形やまちなみをながめます
	第6回講座	9月11日(日)	野外	バスツアー(東金山鉱山跡、ムコロベツ石灰岩採石場ほか)
	第7回講座	10月16日(日)	野外	バスツアー(幌満峡、幌満ダムほか)

編集後記： 前回の講座でジオサイトD4 大正トンネル（上記⑧）の付近を歩いた際、岩場に咲く淡いピンクの花を見た方も多かったと思います。あれはエゾカワラナデシコ。なでしこと言えば女子サッカーなでしこジャパン。彼女たちの活躍からたくさんの元気をもらった方も多かったのでは？私も彼女たちにあやかりたくて、いつもより真剣に？花を観察してきました。

アポイ岳ジオパーク ふるさとジオ塾通信 Vol.10
発行：2011年8月
発行元：〒058-8501 様似郡様似町大通1丁目21
様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会事務局
(様似町役場商工観光課)
電話：0146-36-2120 FAX：0146-36-2662
E-mail：apoi.geopark@festa.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www.apoi-geopark.jp/